

浪速区西南地域まちづくりビジョンにおけるラウンドテーブル会議 議事要旨

- 1 開催日時
令和6年12月5日（木）午後2時00分～午後4時00分
- 2 開催場所
浪速区役所 601 会議室
- 3 出席者
学識有識者 阪南大学国際学部教授、立命館大学共通教育推進機構教授
地元関係者 浪速地域地域活動協議会会長ほか5名
浪速区役所 幡多区長、松原副区長、大野市民協働課長、濱田教育・学習支援担当課長、
横山市民協働課長代理、森川担当係長
- 4 議題
(1) 座長の選出について
(2) 「西南地域の現況」及び「ビジョンの進捗状況」について
(3) 今後の取組の方向性について
- 5 議事要旨
(1) 座長の選出
メンバーの互選により座長を選出
(2) 「西南地域の現況」及び「ビジョンの進捗状況」について
(3) 今後の取組の方向性について
会議資料に沿って2案件をまとめて事務局（区役所）から説明し、意見交換を実施

◆意見交換要旨

（発言者：（学）…学識有識者、（地）…地元関係者、（区）…浪速区役所）

【住環境の整備】

- （学）・子育て層（0～44歳）が増えてきている。これまで進めてきた市有地売却が進んで、住居が建設されたところもあれば、建設中のところもあり、住民が増える要素がある。
- （地）・病院跡地に新しくできた戸建住宅など、住んでいる気配がないところが多い。また、住まわれている方についても地域のコミュニティと関係が築けていないのが課題。
 - ・戸建住宅では、民泊をされているところもあり、外国の方が多く泊まられていて、ゴミ捨てのルールが守られていないことが問題。
- （学）・来年の万博の時期には、外国の方がもっと日本に来られるため、民泊の稼働率も上がる。それが消費に繋がって地域で何か商売が成り立てばよいが、なかなかそうはならない。
- （地）・市営住宅は、空き住戸にもだいぶ入居者が増えてきたが、直近の募集で入居された方の約半数は外国籍だった。ごみの収集や分別の周知は、イラストやそれぞれの母国語で表示した貼紙を作成して掲示しているので大方は対応してくれている。

【教育環境の提供】

- （地）・栄小学校では、外国につながる児童が増えている。
 - フィリピン、アフリカ、中国、ネパールの方などが増えている。
 - ・こども食堂でも外国につながる児童生徒が3割と増えてきている。見守りを兼ねないといけない児童生徒も増えてきている。
 - ・言葉の問題は、スマートフォンの通訳アプリを使用している。行政のサポートも活用している。
 - ・進学時の書類の書き方を教えたり、代筆したりすることも多々ある。日本語は難しいので簡単なわかりやすい言葉で教えている。
- （地）・地域における生涯学習の一環で日本語教室を実施しているが、割と遠くから来られてい

る方がおられる上、体験的に来られる方もいるため、地域での受け入れがもういっぱいになっている。

- (学)・日本語学習のニーズはどんどん増えてきていて、体験的に来たい方もいれば、本当にまだまだ学ばなくてはいけない方もいると思うので、こうした日本語教室などの社会資源をもっと増やしていかなくてはいけない。最近はネパールとかミャンマーといった漢字の読めない方も増えてきている。継続的にしていけないといけない。

【賑わい交流学びの拠点（留保財産の検討）】

- (地)・留保財産の検討について、公共施設の移転や建て替えの計画が具体的に出ているものがありますか。
- (区)・長寿命化を図っていくこともあり、具体的な建て替え等の計画はない。
- (地)・2025 年にこども相談センターが移転してくる予定のため、駅の乗降率も上がる。今は人の流れがないから商業施設がない状態だが、留保財産として事業用定期借地による貸付が可能になったら、何か建てるにしても建てやすいし、商業施設などの建物ができればまた人の出入りは増える。
- (地)・駅近のほうが利用されやすい。
- (学)・「もと大阪人権博物館」や「旧イベント特区A」は駅からも離れている。地域としても「もと市民交流センターなにわ」と「もと浪速青少年会館」この2未利用地を留保財産の決定に向けた手続きを進めてもらうという意見で一致したことを確認する。

【コミュニティ】

- (地)・新たに地域に入居されてきた方は外国籍の方が多く、言葉の壁であったり、文化の違いがあったり、現状、なかなかコミュニケーションが取れていない。
- (地)・コミュニケーションが取れていないところでは、車の止め方やごみ捨てのルールが守られておらず、夜中にごみを捨てにきて困っている。
- (地)・言葉の壁については、保護者が子どもから教わっている家庭もある。
- (学)・すごく特徴的だと思ったのは、地域の公園で外国籍の高齢者が集まって子どもを遊ばせていたが、ほとんど日本語を話していなかったこと。この世代は日本語を覚えるのがなかなか難しく、地域に馴染めるのか心配に思った。
- (地)・市営住宅でもいろいろな国籍の方がいるが、対話したら大体わかってくれるけれども、戸建住宅の方は地域に馴染まない。戸建住宅のところでは、ごみ捨てのルールなど注意する広報はできないものか。
- (地)・とにかくごみ捨ての問題が多い。警察に通報するなどして対応してもらっている。また、ごみ捨ての問題があれば、いろいろな国の言語でごみの収集等について貼紙を作成して周知をしている。
- (地)・防犯カメラを設置すればだいぶ効果はあると思う。
- (区)・お困りのことがあれば区役所にご相談をいただきたい。ごみの問題なら環境事業センターと連携して多言語でチラシを作成し、町会でポスティングをしていただく等いろいろな方法は考えられる。民泊についてもそれを指導する部署があるので、ご相談いただきたい。
- (地)・防災の観点からも、コミュニティをどう構築していくか考えておかないといけない。

【最後にまとめ】

- (学)・教育環境に関しては、引き続き外国人の人口が増えていくことを区役所も注目していただき、いろんな繋がりも活用して、何かあったら連携できるところを探っていく。
- ・賑わい交流学びの拠点に関しては、「もと市民交流センターなにわ」と「もと浪速青少年会館」を留保財産として検討していただくことについて、共通の理解とする。
- ・住環境・コミュニティに関しては、防災の観点からも、日常から繋がりをもっておこなうなど、災害発生時に、誰かが何とかしてくれるだろうではなく、お互いに助け合えるという信頼関係を築いていかなければいけない。戸建住宅にお住まいの方は基本的には定住の意思がある方なので、きっちりと情報を伝えられたら、住民としてルールを守られる方が多いと思う。

- (区)・「もと市民交流センターなにわ」と「もと浪速青少年会館」について留保財産の検討を進め、それ以外の未利用地については、引き続き購買力を上げていく、人を増やすという観点で、早期売却を進めさせていただく。
- ・外国籍の方や児童のこと、防災の課題など、本日いただいたご意見については区役所としてもどんな方法があるか、一緒に考えていきたいと思う。
 - ・本日はいろいろなご意見ありがとうございました。